

# 十 虫送り太鼓の音



「豊作を祈願して行われる松任市横江町の虫送り。たいまつたいまつの火の粉を浴びながら叩く太鼓の音が、赤く染まる夜空に響きます。」



## かいせつ



虫送りは、害虫追放を願って農村で古くより行なわれてきた民俗行事です。昭和の初め頃までは各地でよく見られましたが、戦後、次第に影をひそめました。このような中、今でも大規模に虫送りを行っているのが、松任市横江町です。虫送りは、毎年7月21日の夜と決まっており、住民や近隣の市町村から多くの人たちが参加します。祭りの準備は1ヵ月前に青年会による太鼓のバチ作りから始まります。バチには柳の枝が使われ、アクを抜き、しなりを出すために水に浸けられます。その間、「虫送り」の文字が入った巨大な火縄アーチ作り、太鼓の練習などが行なわれ、祭りを迎えます。当日は、太鼓を先頭に、暗闇の中を松明・カンテラを手にした人々が宇佐八幡神社へ向かい、火縄アーチの下をくぐると一気に境内に入り、大かがり火を囲みます。そして火の粉を浴びながら狂ったように打ち鳴らされる太鼓の競演が始まります。太鼓がうまく叩けて一人前の男と認められてきたため、虫送りは青年たちにとっての晴舞台でもあります。